

義太夫

腹帯のこと

社団法人義太夫協会会長

景山正隆

太平洋戦争末期の昭和十九年、東京新聞に

連載された今は亡き安藤鶴夫の「古靱芸談」(後の豊竹山城少掾の芸談聞書)に、太夫が床上がるまでの身仕度と心構えについて詳細に述べられているが、中でも特に注目されるのは「なにより大事なものは腹帯を締めること」であると言っている点である。

様々な三味線音楽の中で、腹帯を締めるのは義太夫だけである。腹帯ばかりでなく、太夫が、力棒のオトシ(砂袋)を懐に入れ、尻敷きの七兵衛をあてがい、足の親指を立てて座るのも、義太夫特有の構え方であるが、古靱太夫は、腹帯を締めることが最も肝要であ

ると言っているのである。

義太夫の腹帯は、ただ腹に巻きつけるのではない。血行が悪くなるのではないかと思われるぐらいに下腹をたぐり上げるように幾重にもきつく巻いて締め上げる。八世竹本綱太夫は自著の「芸談 かたつむり」で「太夫の声は腹帯をしないと出ない」と述べているが、何故腹帯をしないと声が出ないのであろうか。人間の発声は横隔膜の運動でもある。声を出す時、横隔膜は下に下がろうとするのが自然である。義太夫のように腹から声を出す発声法は横隔膜呼吸法と密接に関係している。腹帯で下腹を締め上げることににより、意識的

義太夫協会会報 第69号

平成11年7月15日

社団法人 義太夫協会発行
〒104-0061 東京都中央区銀座
4-13-11 文明堂3F

TEL (3541) 5471
FAX

に横隔膜を下に下げて深く息を吸い吸気がいっぱいになった時、下がるうとする横隔膜は腹帯のために下がることが出来ない。締めた腹帯が下から支えて伸縮自在な横隔膜を逆に押し上げ 反動的に呼吸の働きを増幅するので、おのずから声が大きく前に出るのである。このように、腹帯を締めることは、義太夫の発声のために音声学的に実に合理的に工夫されているのである。

では、腹帯はいつ頃から締められるようになったのであろうか。私は、竹本義太夫の時代から腹帯をしていたのではないかと想像している。その根拠は『竹本播磨少掾音曲話口伝書』(明和八年刊)に、著者の順四軒(播磨少掾の素人の弟子)が、師匠が亡くなった当日に病床にあった師匠から譲り受けた腹帯を大切な宝物として記されていることである。即ち、これにより義太夫の門弟の播磨少掾が腹帯を締めていたことが確実に知られるばかりでなく、師匠の義太夫も腹帯をしていたかも知れないと想像することが許されるであろう。腹帯は想像以上に古くから床上がる前の最も大切な仕度とされていたのである。

「古靱芸談」によると、腹帯は、巻いたまま両手に戴き、祈念してから巻き始めるという。腹帯は発声の生理ばかりでなく、義太夫を語る心構えとも深く関係していることが古靱芸談から知られる。「情を深く語る」とことは、義太夫特有の身仕度である腹帯を締めにかかった時に既に始まっているのである。

竹本駒之助副会長

重要無形文化財(人間国宝)に認定

〃伝統技法を的確に身に
着け高い評価を得た〃

義太夫節浄瑠璃では故竹本士佐廣師に続いて二人目の認定となりました。三味線では昨年鶴澤友路師が認定されています。



この度の吉報をどちらでお聞きになりましたか。

駒 うちでした。丁度出掛けようと思って、着物着て行こうと思って、襦袢着て伊達締めしめたところに電話がかかってきて、二階の子機を取ったら、文化庁からで、伝統の何とかっておっしゃったから、総合指定の補充の件だと思って、その事だったらお答えしますと申しました。そうしたら、個人っておっしゃるから、びっくりして足ががたがた震えてしまつて……。それから子機を持ったまま、どうしようかと思つてあっちこちぐるぐると歩き回つて……。

私はまだ若いし、うちの若い者と一緒に勉強させて頂いておりますので、そのニンと違いますってお答えしたんです。それで、その日(五月七日)は文楽の初日の前日、越路大夫師匠が東京にみえていらつしやるから、急いで国立に電話して、お弟子さんに、お師匠さんに動かないようにして貰つて下さいって言ったら、五時までは動きませんからって言うから、文化庁の方に二時間待って下さいとお願ひして……。もう着物なんて着ていられないから、洋服に着替えて国立に飛んで行つたんです。長かったですよ、それからの二時間が……。

お師匠さんは何とおっしゃいました？

駒 国立に着いて、稽古の切れるのを待って、師匠の座っていらつしやる横に行つたんです。「何や？」っておっしゃるから、こうこういう訳で、お師匠さんにご相談しなくてはお返事出来ないのでお話したら、「そうか。よかったやないか。すぐお受けさせて頂くようにお返事なさい」とおっしゃって下さったんで、あわてて公衆電話でおかけしたんです。

本当に今回はびっくりしました。私がここにいるんだけど、別なところにもう一人の私がいて……。私が二人いるような感じなんです。自分がどこにいるのかわからなくなっちゃって、もう調子が狂つてしまいました。

これからの抱負、また、後進へのアドバイスをお願いします。

駒 師匠の芸はとても取れません。でも、師匠の足元に少しでもついて行きたい、という事と、ついてきてくれる人には、きちっと私が教わったものを取っていてもいいか、義太夫に対してもっと厳しく取り取んでもいいです。こんな立派でいいものを、安直に考えているのは芸に対して失礼です。また、安直にやれるものと思います。もっともっと厳しいものと思つて取り組んでもいいと思います。素質とかいろいろあるけど、まず努力、本人の取り組み姿勢が一番大切ですね。

ありがとうございます。

【竹本 駒之助(たけもと こまのすけ)】

昭和10年 九月二十五日兵庫県三原郡三原町に生まれる。

昭和24年 大阪にて竹本春駒に入門、駒之助を名乗る。以後、初世豊澤團友、

十世豊竹若大夫、八世竹本綱大夫、豊澤小住、豊澤仙平、豊竹つばめ、大夫(現竹本越路大夫)、野澤松之輔等に師事。

昭和27年 後の義母となる鶴澤三生を相三味

線に東京でも活動。

昭和29年 昭和28年度人形浄瑠璃因協会奨励賞。

昭和34年 結婚により住居を東京へ移す。
昭和45年 現竹本越路大夫の門人となる。
昭和49年 社団法人義太夫協合理事就任。
昭和53年 この年四月より国立劇場養成課講師。

昭和55年 四月、重要無形文化財「義太夫節」総合指定保持者認定。

昭和58年 この年六月より義太夫協会副会長。
昭和61年 第一回豊澤仙廣賞。

平成8年 三月二日、第一回「駒之助の会」発足。紀尾井ホールにて公演。
平成11年 第二十六回モービル音楽賞。
重要無形文化財保持者認定。

竹本駒之助さんの

人間国宝認定を喜ぶ

池田 弘一

竹本駒之助の名を新聞に見、その姿をテレビで見て、うれしさがこみあげてきたについて、ふと思いついて昔々の本牧亭の番組をひろげてみた。その一枚に「桜咲く三月久々にておなじみ深き候当席にうれしくも出演させて頂きます。未だ年少お聞き苦しき点多々御座いますれど……」という駒之助さんの挨拶があった。当時の番組には月日だけで年が書いてないが、駒之助さんの初東上は昭和二十七年だから、「久々にて」という語から、この番組は昭和三十年ころのものと推測され、駒之助さん二十歳の春ということになる。後

に義母になる三生さんの糸で「宿屋・先代・壺坂・太十」を四日間のキリで語っている。「未だ年少」と述べながらも実に語りは本格美音で当時の常連も色めき立って拍手をおくった。

本牧亭が閉席に近づいたころ、駒之助さんを弾き続けていた三生さんが病に伏した。その看護に明け暮れながらも本牧亭の舞台を勤めていた駒之助さんの、やつれた姿を楽屋の手前の部屋で見た。その姿をなぜか今も忘れない。その夜の「朝顔」も忘れていない。あのころから駒之助さんは脱皮を始めたのだと思う。やがて平成と変わり、舞台は三宅坂に移った。長い長い修練の道を脱皮を重ねつつたどりたどって人間国宝認定に至った。しかし、もとより人間国宝と称されることは芸の終着を意味しない。邦楽の世界のどこでも後進の育成が唱えられている。ところがほんとうに若手を育てているのかというと、あぶなっかしい状態ではない。

駒之助さんの責任は重い。だから、決して病氣や怪我をしてはならない。そして、自己の芸の錬磨もさることながら、後進をいかに指導するのが真の育成になるのかを、日々研究してほしい。芸が新鮮であらねばならないように、指導・教育も日に日に新たでなくてはなるまいと思う。

駒之助さんの人間国宝認定を心から喜ぶとともに、いささか思い出に合わせて期待するところを述べる。

桜咲く三月久々にておなじみ深き御当席に嬉しくも出演させて頂きます。未だ年少御聞き苦しき点多々御座いますれど平素の御最良に免じ何卒御声援願ひて、数々御来場下され度くお待ち申上げます。敬具
弥生興行 竹本駒之助并 各位様

三月(日)より四日(木)時半開場

三月一日				三月二日			
鈴ヶ森	御所	紙物	密屋	鈴ヶ森	御所	紙物	密屋
綾あ	綾あ	綾あ	綾あ	綾あ	綾あ	綾あ	綾あ
玉春	玉春	玉春	玉春	玉春	玉春	玉春	玉春
山別れ	柳	官邦	酒屋	山別れ	柳	官邦	酒屋
綾あ	綾あ	綾あ	綾あ	綾あ	綾あ	綾あ	綾あ
玉春	玉春	玉春	玉春	玉春	玉春	玉春	玉春
梅由	安達	新の口	三代記	梅由	安達	新の口	三代記
綾あ	綾あ	綾あ	綾あ	綾あ	綾あ	綾あ	綾あ
玉春	玉春	玉春	玉春	玉春	玉春	玉春	玉春
日杏丸	白石	奇の屋	招津	日杏丸	白石	奇の屋	招津
綾あ	綾あ	綾あ	綾あ	綾あ	綾あ	綾あ	綾あ
玉春	玉春	玉春	玉春	玉春	玉春	玉春	玉春
壺坂	三代記	新の口	安達	壺坂	三代記	新の口	安達
綾あ	綾あ	綾あ	綾あ	綾あ	綾あ	綾あ	綾あ
玉春	玉春	玉春	玉春	玉春	玉春	玉春	玉春

上野本牧亭

電話 下谷(03)1-1137

お達者ですか

Part 4

豊澤重松師の巻



まずはこの度、と言っても昨年の秋ですが、文化庁長官表彰おめでとうございます。

義太夫の三味線を始められたのはおいくつ位の時ですか。

重 わしかね？ わしは十二歳。

それはどういう訳で？

重 私の父が松本松蝶（しょうちょう）とい
って、地芝居、歌舞伎の振付師だったので、
役者も来るし、芝居の事はちよこちよこ知
つったのよね。愛知県豊田の奥の小原
（おばら）村という所。今でも小原歌舞伎

と続いて続いていますよ。

卒業の秋、村に関西歌舞伎の一座が来て、
その時出ていた豊竹鳴重（なるえ）太夫と
いう人に弟子入りしたんですが、声が幼声
ゆえ三味線で、という事になって「鳴司」
という名で歌舞伎の世界に入りましたが、
入って四年目に師は四十三歳の若さで他界
されました。その後、鳴重太夫師の師匠で
ある大阪の豊澤重太郎師の弟子となり、師
の前名の重松という名前を頂いて今に至っ
てます。

その頃は大歌舞伎とは別に、定打ちの劇
場があちこちにあり、私は神戸にあった朝
日座に二年半出てました。当時は巡業歌舞
伎劇団が全国にたくさんあって、その中の
細川興行の一座公演が朝日座であり、初日
より大入り満員の入気で、その一座に惚れ
込んだ私は太夫元に頼んで加入しました。

一座の内容は、責任者は太夫元で、奥役、
事務員、先乗り、頭取、ほかに五厘屋とい
うのがあり、先にポスターを持って劇場の
小屋主等に交渉契約し、入場料総上りの
五厘を貰うところより五厘屋と呼ばれてま
した。俳優が十五名なら裏方連中も十五名、
二十名なら裏方連中も二十名の割合で太夫
元は抱えたものでした。お客三百人入れば
劇場側も太夫元も損しない入場料極めて、
三百五十人入れば五十名分の利がある事にな
る訳です。

その後私は三代目の太夫元を継いで、十
三年間致しましたが、時代も変わり、テレ

ビに出る俳優でなければお客が見物に來な
い時代となり、昭和四十五年十一月末に富
山で一座を解散致しました。

解散後は東宝歌舞伎に出演していましたが、それもなくなり、松竹に入って今日に
至りました。芸風が合うのか、猿之助さん
の公演によく出演させて頂いております。

私の若い頃は義太夫が流行していて楽し
かったけど、現在はさっぱりで淋しい至り
です。名人の出るのを待っておりますが、
なかなか現れる気配がなくて残念です。義
太夫の神様が出るのを待っております。

今は地方歌舞伎のご指導にも行つてら
っしゃるんですね。

重 やつとるよ。八年前の正月に滋賀県の長
浜市で、義太夫を教えますと広報を出して、
市が乗り出して教室が現在も続いている、
その中から二人、長一郎、勝二郎の両君が
松竹に入ってやつとるよ。長浜曳山歌舞伎
にも教室より出るようになって、私も時々
行つとるよ。

話は変わりますけど、この間テレビの
「たけしの誰でもピカソ」にお出になっ
たんですね。猿之助さんと一緒に。

重 いやもう、大勢の人が見てるんでびっく
りしちゃった。東京では人形町に泊まっ
てるんだけど、宅急便を出しに行ったら、「あ

んた、こないだだけしの番組に出てた人でしょー!」って言われて(笑)。

戦争の時はどうなさっていたんですか？

重 戦争は行ったけれど、坐骨神経痛で戻されちゃって、半年くらい軍需工場で働いて、八月十五日に戦争が終わって、十八日から歌舞伎やってた(笑)。

健康のために何か心がけている事はありますか？

重 まあ気楽にやっとなるっていう事かな。もう八十二になるからね。前は神経がぴりっとしとったけれど、この頃は何となく横着になってね(笑)。

太夫元をやってらっしゃった時は、お客の事から演目の事、役者の事、みんな心配しなくてはならないんですね。

重 そうそう。一座のみんなに月給払わなくちゃならないんだからね。それはちょっと一言では言われんわ。三味線弾いても常に入り心配してた。何とかしてお客を喜ばせようという考え方はこの頃身についたんです。

国立の養成課でも教えてらっしゃるんですね。

重 若い人も少しずつ増えて、まあ安心だわ。最近では松三郎さんと一緒に歌舞伎のメリヤスを保存のために録音もしました。

ご結婚はいつ頃に？

重 結婚は早かったよ。二十四で子供が出来たんだから。今は娘の家族と一緒に暮らしています。

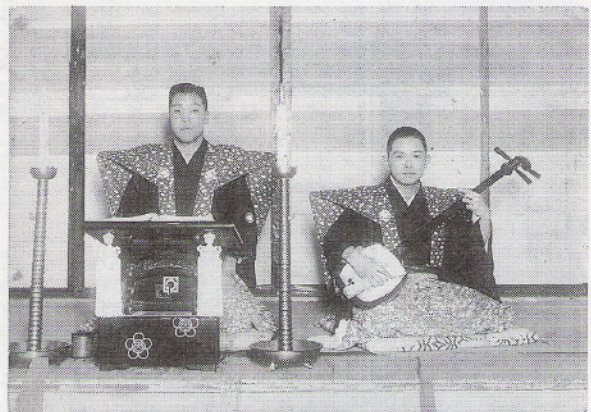
三味線持って七十年。歌舞伎の世界に入ってから六十五年。長年この道に勤めた事で昨年十一月文化庁の賞を頂き、拙い芸にて恐縮しているところです。十二月二十四日に今住んでいる西尾市で祝う会を催して下さり、市長の前で都々逸をやりました。

「八十過ぎたで」

(詞で) 紅白の餅でもくれると思うたら文化賞とは、

驚いた〜」

皆大喜びでした(笑)。



昭和13年兵庫・朝日座にて。
竹本朝香太夫(左)と

【豊澤 重松(とよざわ しげまつ)】

大正5年

八月八日、愛知県西加茂郡小原村万人講歌舞伎の振付師松本松蝶の三男として生まれる。

昭和3年

豊竹鳴重太夫に入門。

昭和7年

豊澤重太郎の弟子となり、重松と名乗る。

昭和33年

細川興行の太夫元となる。

昭和45年

一座を解散。

昭和47年

松竹と契約。

平成4年

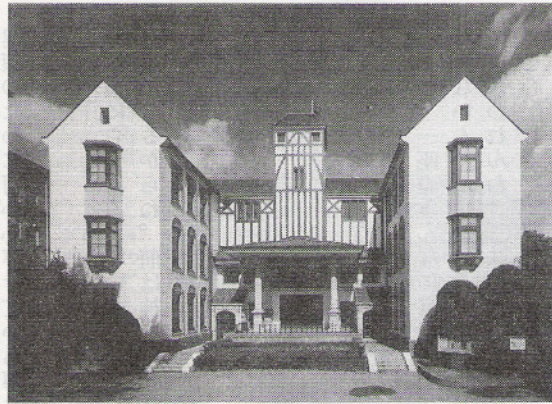
松尾芸能賞邦楽特別賞。

平成10年

文化庁長官表彰。

早稲田大学の演博が

リニユーアルオープン



お待たせしました。早稲田大学坪内博士記念演劇博物館(通称・演博)がリニユーアルオープンしました。

思えば、早稲田大学演劇博物館振興基金支援公演として、女流義太夫定期演奏会を開いたのが平成八年の十一月。その時にご出演いただいた鳥越氏、菊池氏、池田氏、そして教室の受講生でもあった女優の加藤氏に、演博のことや義太夫のことなどに関する原稿を寄せていただきました。

演劇博物館と義太夫節

鳥越 文蔵

演劇博物館は新しい史劇を五代目中村歌右衛門らの名優に書きおろした坪内逍遙によって創設され、その初期の三十年に及ぶ運営に当った河竹繁俊二代目館長が、河竹黙阿弥家の人ということもあり、歌舞伎との縁は深い。逍遙の意図したところは、世界の演劇資料を一堂に集めて比較研究を可能にする点にあったが、日本にある博物館であれば、いきおい日本の演劇資料が最も多く、しかも歌舞伎関係が群を抜いているというのは当然の経緯であった。

昨年十月、七十周年を迎え、館内も一新して再開したが、人形浄瑠璃関係の展示で新しく加わったものは、今まで一つもなかった人形芝居の劇場模型である。期待どおり、立派なものが出来たのは、一つの誇りである。

義太夫節関係は資料としては沢山ある中で、次のようなものを挙げておこう。

豊竹古靱大夫時代の櫓下看板や見台。豊竹呂昇譲りの山城少掾愛用の見台。杉山茂丸其日庵(宛)の古靱大夫の書簡など。名人山城少掾ばかりを挙げたが、四世竹本大隅大夫や豊竹団司の見台もあれば、四世鶴澤清六愛用の三味線もある。これら名人上手の逸品を頂戴している。

義太夫節の出版物となると書ききれないは

どあるが、主なものを数点挙げておこう。近松門左衛門の自筆書簡や丸本の原稿は天下唯一のもの。近松作の丸本はほぼ全作品を揃えている。近松以後の義太夫節も同様で、丸本、稽古本、番付等の収蔵量は世界一であろう。身近なところでは、二世豊澤新左衛門の朱入り本や、豊澤和孝師のご所蔵本もご遺族から寄贈された。これらを含め「特別資料目録6 貴重書 人形浄瑠璃篇」として公開しているのでご参照下さい。それより、まず演博へお運び下さることをお願いしておきます。

(前演劇博物館館長)



寺子屋会のこと

菊池 明

本年三月二十六日、四世竹本相生大夫師が亡くなった。享年六十歳。これからの文楽座を大きく支えて頂きたい方だっただけに、残念の極みだが、同時に私たち寺子屋会としても、非常にショックであった。かれこれ二十年に及ぶ、この会での義太夫の師匠であったからである。寺子屋会は、昭和四十一年、三世竹本相生大夫（のちの相生翁）の命名、指導により、早稲田大学の演劇博物館を中心に生まれた会で、義太夫の習得を通して、それぞれ自身の研究を深めようというものだった。相生師は文楽が東上した時に指導されるということだったが、実際には女流義太夫の師匠がたに稽古をして頂いた。

最初は三味線の名人三世鶴澤清六の内弟子だったという竹本清司さん、ついで四十三年頃からは三味線から語りに変わった二代目竹本光末さん。その光末さんも五十三年に亡くなったので、翌年から、発足の縁故によって、四世相生大夫にお願いすることとなり、今日に至った。会員は集まり散じて相当な数にのぼるが、発足以来の者は私一人になってしまった。初期には故郡司正勝氏や内山美樹子さん、景山正隆氏も参加され、一時は白石加代子さんの姿もあった。なかにプロになった人もある。竹本三輪大夫、竹本越京、鶴澤寛也

などの諸氏である。お浚いというか、発表会も、本牧亭その他で数回経験をしている。

寺子屋会は多少のブランクはあるにしても、

今日まで三十年、よくも続いたものと思う。

それは無論義太夫が好きだからではあるが、

よき師匠に恵まれ、楽しんでお稽古が出来たからであろう。師匠のお三方、それぞれ教え方が違っていった。清司さんはひとくさりを何回か弾き語りで聞かせてくださる。われわれはただ黙って聞いているだけ、こちらがなまじっか、口のなかで、もそもそ言い始めると、ピタリと手を止めて、「もう、言えますか」と厳しい表情になった。光末さんは細かく区切って教え、「もう一度、もう一度」となかなか先へ進まない。相生大夫師は一段を前後くらいに分け、口三味線と扇子で拍子を取りながら、舞台と同じような大声で語られる。それが毎回延々と同じことの繰り返しである。われわれはそれに合わせて声を出すだけ、一度も一人で語ったこともない。三味線を入れての稽古は、演奏会の前の二、三度だけ。しかし、肩衣をつけて舞台上がったら、自然と三味線と溶け込んでいた。――師匠、三者三様、いまは懐かしい思い出である。

（財団法人逍遥協会理事長）

「エンパク」の思ひ出

加藤 道子

演劇博物館七十周年おめでとうございます。私事ながら今年は父母の十七回忌、三十七回忌に当たる。幼い頃から両親の会話の中でエンパクと云うことばに馴れ親しんでいた。演劇博物館はこのエンパクから入っているのだから私にはおなじみの懐かしい博物館である。

或る日は父の用事の為か演博を訪れ、丸テーブルの前で待つ時間があつた。其処へずっと右肩越しに無言でお茶を出して下さった方がいる。ハッと眼をあげた時はその女性は今もう後姿で静かに向こうへ歩み去られる。その時受けた気は今まで感じたことのない、何とも云えぬ暗い雰囲気。思わず私はそのグレイのスーツの後姿を見入ってしまった。後で島村抱月先生の令嬢ときいてショックだった。抱月と須磨子の物語も最早歴史。そしてそんな歴史の裏にも犠牲はあったのだと私は胸をつかれる思いがした。あの事件はお話でしか知らないもので、抱月の幼いお嬢さんは、私の中で時間は止まっていた。大人になられた姿は考え想像した事もなかった。短絡であるが私には一刻ではあつたがあのいいような無い暗さは印象深く、「犠牲」としか思えなかった。幼時の体験―そしてその後―人間は生きるも死ぬも悲しいものと沁みじみ感じた事であつた。

父は坪内先生の創られた文芸協会の学生であつたが、須磨子と同じ一期生であつた。昭和十六年、「お前も一期生だな」と父は笑つた事があつた。私はNHKがラジオドラマの為に創つた東京放送劇団の一期生であつた。研究所は二年半だったが、終わりの頃、どうしても義太夫が習いたくて、間をみては同期生を探してくれた銀座の師匠のもとに内幸町から一緒に通い始めた。然し師匠はすぐ疎開され義太夫は頓挫した。そして終戦、戦後ラジオ放送は忙しかつた。年経て偶然義太夫教室の存在を知り即入門。今度は三十期生となつた。新橋演舞場の裏の古い汚い教場、でも中身はピカピカ。駒之助師、朝重師の語り、太棹は弥乃太夫であつた。

義太夫節の何とよく出来ていること！ドラマをつくる上に私は、仕事にも沢山のものをいただいた。当節、フト思うがTVで汚い大阪辨をきくことがある。義太夫を通してでも上方辨の美しさも広げていただきたいものである。

加藤氏は、早稲田出身の俳優加藤精一氏の長女で、勲四等宝冠章、紫綬褒章をはじめ、先年「坪内逍遙賞」を受けられています。

閑話

昭和から平成に改まり、その記憶も新しいまま、十年の月日があつと言う間に過ぎました。天皇即位十周年に当たる今年は又、両陛下のご結婚四十周年の記念の年でもあります。御結婚ブームで賑わう昭和三十四年当時、ラジオの邦楽番組でも、お祝いの為の特別なプログラムが組まれ、義太夫も放送されました。(当時の放送台本より)

ラジオ東京音楽部制作
皇太子御結婚慶祝番組

義太夫「長生殿」

長 唄「青春吉日」

放送日三十四年四月十日(金)

午後二、三〇〇一、〇〇

「長生殿」は、近松門左衛門作「十二段」(後に「源氏十二段長生島台」と改題)のうち、三段目の奥に付けられた御祝儀の一節。物語の主人公牛若丸と浄瑠璃姫の祝言に、姫の母が四季の島台を祝う件で、豊澤松太郎作曲。

浄瑠璃 竹本土佐広 笛 福原英次

竹本綾枝 小鼓 福原鶴祐

三味線 豊澤猿幸 福原鶴一郎

豊澤勝八 太鼓 望月吉四郎

鶴澤駒登久 太鼓 梅屋勝良次

ウタイへよはひ久しき例には。

六下りへ千代に八千代にさざれ石の、巖となりて苔のむすまで、動かぬ形を現わせり。扱、又五番の島台は、明けぬる春の鶯の、さへづ

る声の美しく、立つや霞のうらよりも、二上りへ色染め出す梅の花、南枝北枝の初薫り長閑に風をふくみつ、折を待ち得て桜花、末葉くへに千代こめて。

へ万々歳と君が代の、年の数をば白妙の、浜の真砂と敷島や、かの貫之の言葉迄、ここに写して有磯海、つばを並べて盃の、数重なれどゆく泉、つきせぬ中の友白髪、歳行末の久敷は、長生殿とぞ祝いける。



お知らせ

竹本駒之助副会長の重要無形文化財保持者認定を記念して、河野哲丸氏より「国声賞」が贈られ、総会席上で景山会長より手渡されました。

協会の動き

'98 年 12 月より
'99 年 5 月まで

「平成十年度」

12月11日 第一回巴の会

於東京証券会館ホール

12月13日 事務所引越し

12月25日 芸術文化振興基金平成11年度助成金交付要望書提出

1月1日 会報68号発刊

1月20日 正会員・役員新春挨拶交換会

20日 女流義太夫演奏会「初春公演」

(芸術文化振興基金助成)

於国立演芸場

1月25日 編集部会

2月24日 第18回伝承者研修発表会(義太夫節保存会主催、義太夫協会後援、文化庁・東京都助成)

文化庁・東京都助成)

於国立演芸場

2月27日 義太夫教室OB演奏会I第51期生卒業発表会(義太夫教室OB会主催、義太夫協会後援)

2月28日 第4回竹本駒之助の会(義太夫協会後援)

於東京証券会館ホール

於紀尾井小ホール

3月1日

「じょぎ」公演

2日

於上野広小路亭(二日間)

3月5日

車人形出演 於八王子浅川中学校

3月6日

車人形出演

於八王子上柚木中学校

3月13日

'99都民芸術フェスティバル第29回邦楽演奏会参加

於新宿朝日生命ホール

3月15日

義太夫教室第51期上級コース修了式 於演舞場スペースアルファ

3月22日

女流義太夫演奏会(芸術文化振興基金助成) 鶴澤弥吉芸団協助成新人奨励賞受賞記念。開演前舞台にて表彰式を行なった。

於国立演芸場

3月26日 義太夫節保存会理事会

3月31日 芸術文化振興基金平成十年度報告書提出

31日 編集部会

於You

「平成十一年度」

4月1日 義太夫節保存会事業報告書提出

4月12日 平成11年度国庫補助金内定

4月13日 芸術文化振興基金平成11年度助成金内定

4月19日 平成11年度国庫補助金申請書提出

4月22日 女流義太夫演奏会「義経千本桜」

於国立演芸場

5月1日 車人形出演 於八王子第七中学校

5月1日 「じょぎ」公演

2日 於上野広小路亭(二日間)

5月14日 車人形出演 於元八王子中学校

5月21日 平成11年度東京都文化財保存事業費補助金の額の確定通知

5月28日 女流義太夫演奏会「恋女房染分手綱」岸姫松鑑

於国立演芸場

5月29日 「ミッドナイトすじようり」

於神楽坂セッションハウス

5月31日 編集部会

31日 義太夫教室第52期初級コース開講

於演舞場スペースアルファ

これから

第二回巴の会

八月二十八日(土) なかの芸能小劇場

二時開演

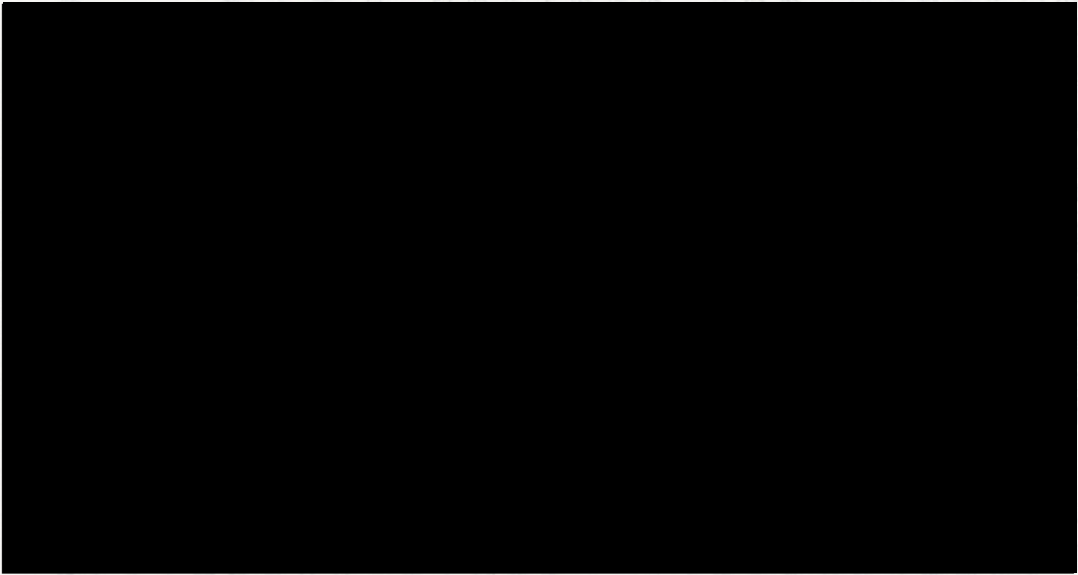
薫樹累物語

*第四回長月会

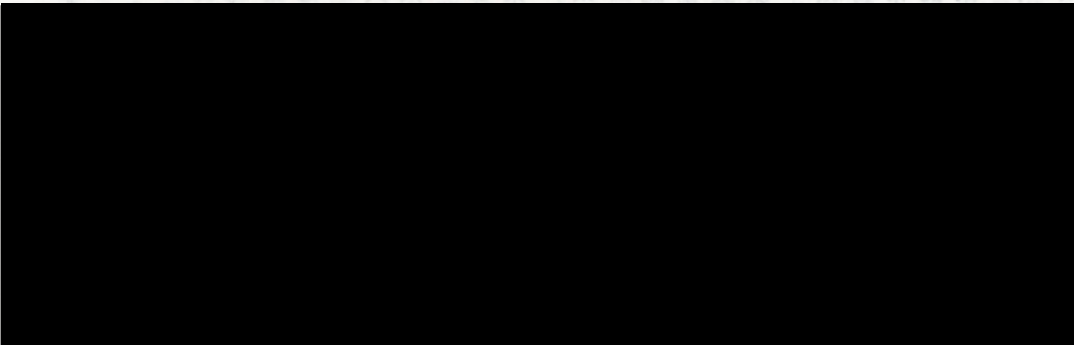
九月二十四日(金) 上野広小路亭

六時半開演

新入会員御紹介(入会順・敬称略)



住所(住居表示)等変更



〈寄付〉

出月 清人様 五万円
和田 博様 五万円
七宝の会様 五万円
大日本素義会様 三万円

〈寄贈〉

児玉 武雄様
豊竹呂昇ほかSPレコード 27枚

〈訃報〉

上原 操(特別会員)
平成十一年五月十二日 逝去
豊澤 瑩 緑(正会員)
平成十一年五月十五日 逝去

【編集後記】

○突然の嬉しいニュースで、ちよっとてんてこまい。ますますホットな夏になりそう!! (T)
○せっかくパソコン買ったのに、事務所でプリントアウトできない：ワード98入れて!! (K2)
○ノストラダムス予言の七月も何のその! (Y)
○着々と編集作業も進むようになりました。ベ이스ターズがんばれ。(SK)